

胆汁で惹起された急性びらん性胃炎：制酸剤、コレステリミン、プロスタグランディン E₂ による予防

Bile-Induced Acute Erosive Gastritis. Its Prevention by Antacid, Cholestyramine, and Prostaglandin E₂: N. S. Mann (*Am J Digest Dis* 21: 89~92, 1976)

急性びらん性胃炎は、大量の胃出血を起こしうる。そのメカニズムは明らかでないが、胃の mucosal barrier の破壊とHイオンの逆拡散の亢進が要因であろう。胆汁酸塩や表面活性剤が、mucosal barrier を破壊しうることは知られている。しかし胃に傷害を加えるには、酸の存在が必要と思われる。胆汁が十二指腸から胃へ逆流することはよく知られていることで、これが急性胃炎の病理

発生に関連がある。

著者らは、ラットの実験で、胆汁を胃内投与して急性びらん性胃炎をつくり、そして制酸剤、cholestyramine (胆汁酸塩と結合する)、Prostaglandin E₂ (胃酸分泌を抑制する) の同時胃内投与により急性びらん性胃炎発生を防止できるかどうかにつき研究した。

全胆汁を与えた場合、びらん発生はもっとも多く、胆汁に Cholestyramine または Maalox (制酸剤) の混合投与では、びらん発生が約2分の1または3分の1に減少した。ところで Prostaglandin E₂ の投与では、びらんほとんど発生しなかった。通常胃の分泌過多が急性びらん性胃炎を起こすに必要といわれるが、胆汁で惹起される胃障害は少量の酸があれば十分である。

Prostaglandin E の消化管対す

る作用は、過去10年間研究され、胃腸管の運動と胃分泌に関係することが分った。PG E₁ と E₂ は、どちらも胃酸分泌を抑制することが証明されている。PGE とその合成剤は、胃酸分泌を抑える事実により人の潰瘍治療に用いられ、好成績の報告がある。経静脈投与も経口投与も行なわれている。ラットの実験で、実験的胃十二指腸潰瘍が PG E₂ の投与で予防された。ここではラットで、胆汁投与で起こる実験的急性びらん性胃炎が制酸剤、Cholestyramine, PG E₂ の同時投与で防禦効果のあることが示され、中でも PG E₂ が、他の2つに比べてもっと効果的であったことを示した。

(愛知県がんセンター 第1内科
小林世美 抄)